京都市地域公共交通計画

～「自分ごと」、「みんなごと」～　使って守る公共交通

計画全編は
こちら→

京都市では、人と公共交通優先の「歩くまち・京都」の実現に向けて取り組んできた結果、クルマに過度に依存しない、徒歩・公共交通を中心としたまちや暮らし、観光への転換が進んでいます。

一方で、「歩くまち・京都」の推進の根幹を支え、市民生活にとって重要なインフラである公共交通を取り巻く環境は、地域における人口の減少や生活様式の多様化による利用者の減少に加え、運転士や整備士などの公共交通の担い手不足の深刻化などにより、厳しさを増しています。

こうした状況の下、将来にわたって、地域の特性やニーズに応じた生活交通を維持・確保し、持続可能なものとしていくための考え方や具体的な取組を示した「京都市地域公共交通計画」を策定しました。

計画の区域　京都市全域

計画の期間　令和１１年３月までの概ね５年間

計画の位置付け　令和３年１１月に改定した『「歩くまち・京都」総合交通戦略2021』の個別計画と位置付け、同戦略に定める３つの柱の一つ「持続可能なまちづくりを実現する公共交通ネットワークの形成」の施策・推進項目を基本に、重点的に取り組んでいく内容を取りまとめました。

計画の理念

市民・交通事業者・行政、それぞれが連携しながら主体的に役割を果たし、

1　市民生活を支える交通手段の維持・確保
2　都市の未来を見据えた公共交通の利便性・快適性の向上

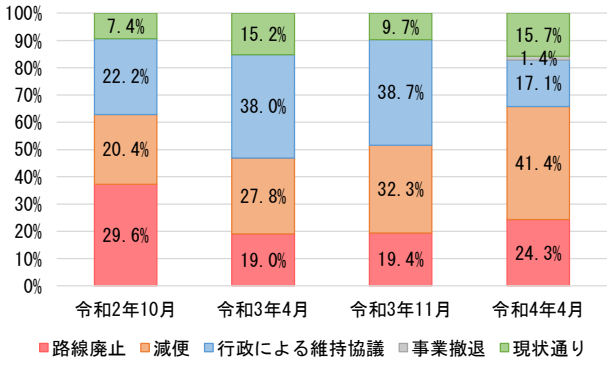
によって「歩くまち・京都」の基本理念である「人と公共交通優先のまちづくり」を継承・進化させます。

皆さんに知っていただきたい、５つのこと

1　全国の公共交通が危機。京都も同じ状況です。

京都の公共交通は、担い手不足、人口減少、利用者減少により、厳しい状況に置かれています。

全国的にも、鉄道・バス路線の廃止や減便、タクシー事業者の廃業が相次いでいます。

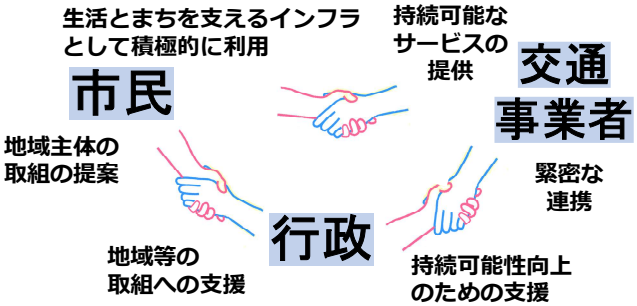


コロナ禍を受けたバス事業者の撤退・縮小意向
（出典：（一財）地域公共交通総合研究所「公共交通経営実態調査報告書」）

2　「他人ごと」から「自分ごと」、「みんなごと」へ。使って守る公共交通。

「交通事業者任せ」、「行政任せ」では公共交通を守ることはできません。

市民の皆さんも主役として、公共交通を積極的に利用し、支えることが、極めて重要です。

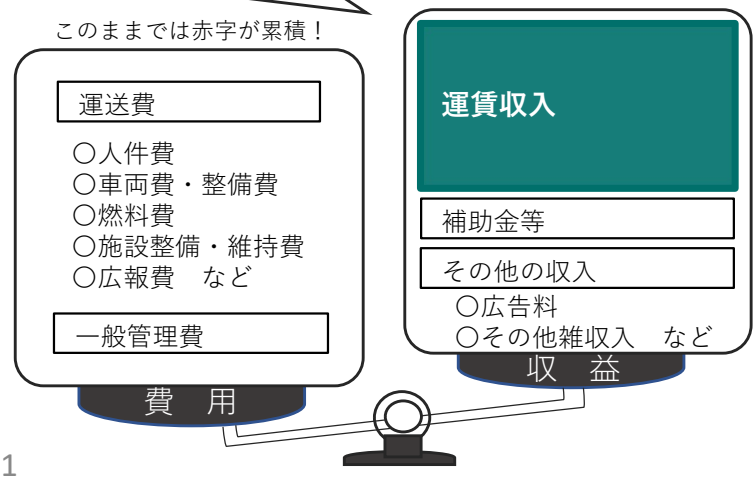


市民：公共交通の重要性の認識と積極的な利用
交通事業者：適切な運賃体系を前提とした、効率的な公共交通ネットワークの維持・確保
行政：三者一体となった取組の推進と市民・交通事業者への支援

費用と収益との均衡、更なる増益を目指し、交通事業者は日々、様々な取組を行っています。

公共交通の維持・確保には、**主な収入である運賃収入**が増えることが何よりも重要です。

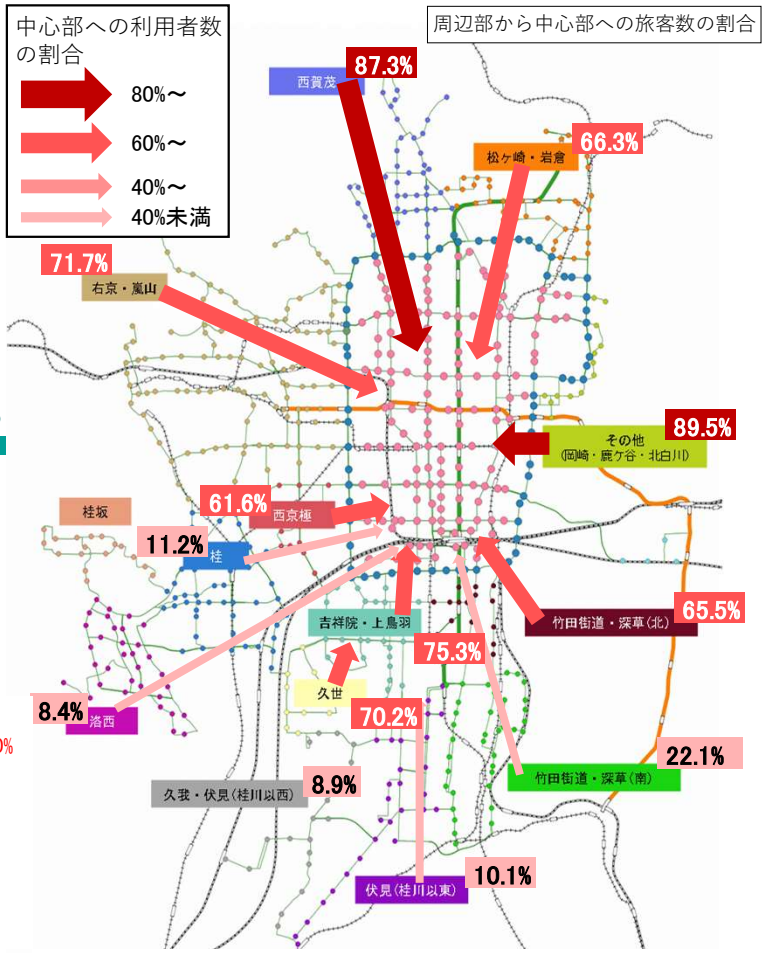
今より１回でも多くの御利用をお願いします。



3 都心部の路線は、周辺部や中山間地域等からの利用があればこそ。

都心部の充実した路線網や便数は、周辺部や中山間地域等を含む市内全域からの移動があればこそです。

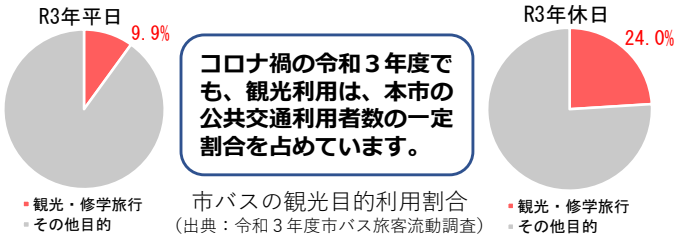
収支の厳しい周辺部等を含む市内の路線網を維持するため、市域全体で、公共交通の利用拡大に取り組むことが必要です。



(出典：第２回京都市バスの路線・ダイヤの在り方に関する検討委員会資料)

4 観光客等の利用が、路線網や便数の充実につながっています。

通勤・通学等の利用に加え、観光客等、入洛者による利用により、早朝・深夜の運行、高頻度の運行や、路線網の充実が実現し、市民の利便性を支えています。こうした認識の下、観光等の利用と市民生活の両立を図る観点から、混雑緩和を図る必要があります。



コロナ禍の令和３年度でも、観光利用は、本市の公共交通利用者数の一定割合を占めています。

市バスの観光目的利用割合
(出典：令和３年度市バス旅客流動調査)

5 公共交通の利用拡大は、ＳＤＧｓに貢献します。

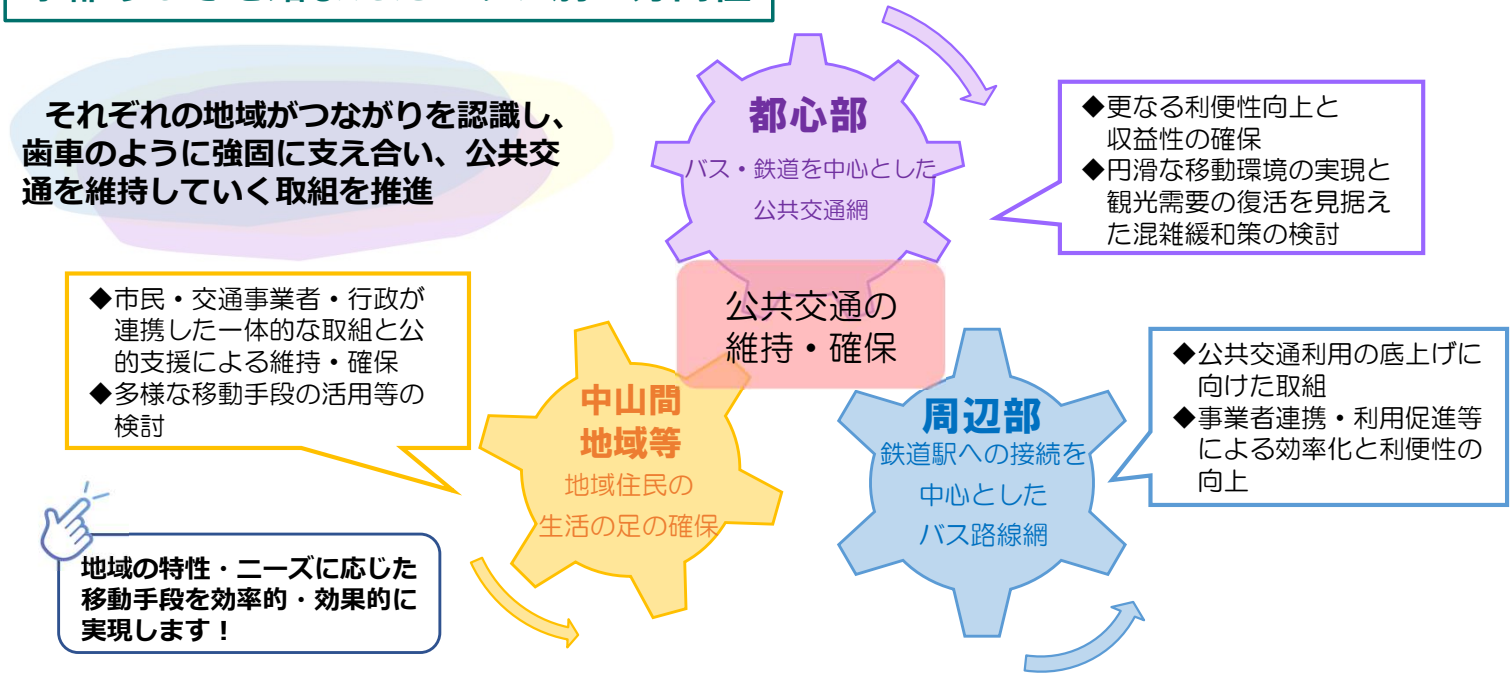
クルマに過度に依存せず、公共交通を利用することは、皆さんの健康にも、地球環境にも優しいことです。

また、子どもや高齢者、障がいのある方など、全ての方々の移動を支えることにもなります。このように公共交通は、ＳＤＧｓの取組にも大きく貢献するものです。

本計画に関連する目標

京都らしさを踏まえたエリア別の方向性

それぞれの地域がつながりを認識し、歯車のように強固に支え合い、公共交通を維持していく取組を推進



みんなで取り組む１０のアクション

＜　＞内は主に取り組む主体を記載
事：交通事業者等、行：京都市・国・府

市民一人一人が支える公共交通【計画:76･77ページ参照】

■利用促進の取組を展開し、みんなで公共交通を支えるという意識を広げる必要があります。

●地域住民が主体となったモビリティ・マネジメントの取組を全市的に拡大（支援の充実）＜市民・行＞

●幅広いターゲット層に向けた取組を実施（公共交通を利用していない層など）＜行＞

公共交通の利用促進は、健康寿命の延伸、環境負荷の軽減につながります。

利用者の増加 → 利便性の向上 → 利用促進の取組 → 利用者の増加

好循環の実現！

「自分ごと」として、公共交通の重要性を認識し、積極的に利用しましょう！

交通事業者間の「競争」から「共創」へ！【計画:70･71ページ参照】

■数多くの交通事業者がネットワークを構築するという本市の特徴を踏まえ、交通事業者や行政の連携を強化します。また、ネットワークの在るべき姿について議論を重ねていきます。

●バスの運行ダイヤの調整、運賃制度の共通化等を推進（交通事業者間の連携を強化）＜事・行＞

●路線図の統一化などによる分かりやすさの向上＜事・行＞

●洛西地域の公共交通リニューアル（シームレス化の推進、まちづくりと連動した持続可能な交通ネットワークの構築）＜事・行＞

みんなで守る地域の足！【計画:75ページ参照】

■多様化する移動需要を踏まえ、地域が主体となった生活交通維持の取組も重要です。

●生活の足を維持・確保するため、現支援制度（地域主体の生活交通確保補助金）の充実を検討＜行＞

●地域における「モビリティ・マネジメント」の活動を支援＜市民・行＞

生活交通と観光交通の共存【計画:85～89ページ参照】

■観光利用と市民生活との調和に向けて観光・混雑緩和に取り組む必要があります。

●最適な経路を案内するため、インターネット検索サイトとの連携を検討＜行＞

●観光地における時期・時間・場所の３つの分散化の取組を強化＜行＞

●混雑緩和に向けた駅施設の改善可能性について、関係事業者との協議を実施＜事・行＞

新しい技術(DX･GX等)の活用【計画:83･84ページ参照】

■目覚ましいスピードで進む技術革新を踏まえ、新技術を活用した公共交通の利便性向上等が求められています。

●バスの運行情報のオープンデータ化の拡大＜事・行＞

●交通事業者が実施する混雑データ・運行データの整備・配信に係る取組を支援＜行＞

●「京都　地下鉄・バス　ICポイントサービス」（京都カード・京都ポイント）の更なる拡充を検討＜事・行＞

● EV（電気自動車）バスやEVタクシー等の導入による公共交通の脱化石燃料化に向けた方策を検討＜事・行＞

持続可能な交通体系の検討【計画:72･73ページ参照】

■バス路線の維持・確保に向けた取組を進めるとともに、輸送資源を総動員し、地域の実情に沿った移動手段を確保する必要があります。

●地域の実情に応じた多様な交通手段を検討＜市民・事・行＞

●交通手段が地域にとって持続可能な生活の足となるよう必要な支援を検討＜行＞

急務！公共交通の担い手確保
【計画:74ページ参照】

■全国的に運転士や整備士など公共交通を支える担い手が不足。担い手の確保に向けた取組が急務となっています。

●公共交通に対するイメージ向上策を検討＜事・行＞

●自動運転等の新技術導入に係る支援を検討＜行＞

新たな取組

●効率的な運営を目指す乗合タクシーの実証実験の結果を検証し、本格実施の可能性を模索＜事・行＞

新たな移動手段の活用
【計画:82ページ参照】

■交通結節点から最終目的地までの移動、いわゆる「ラストワンマイル」に対応するため、多様なモビリティの活用が求められています。

●新たなパーソナルモビリティ*の活用を検討＜事・行＞　　＊　1～2人乗りのコンパクトな車両

●シェアサイクルを推進（サイクルポートの設置拡大など）＜事・行＞

●安全性の確保を前提に、主に周辺部のラストワンマイルの足となる電動キックボードの効果的な活用を検討＜事・行＞

交通以外の分野とのコラボレーション
【計画:81ページ参照】

■交通事業者間の連携に加え、医療・福祉など他の分野・サービス等との共創による取組が求められています。

●交通以外の分野と連携した取組の推進＜事・行＞

新たな取組

●タクシー車両を利用した貨客混載事業の実証実験の結果を検証し、本格実施の可能性を模索＜事＞

国制度の活用も含めた支援を検討。京都市として共創の取組を支えます！

もっと安心！もっと快適に！
【計画:78～80ページ参照】

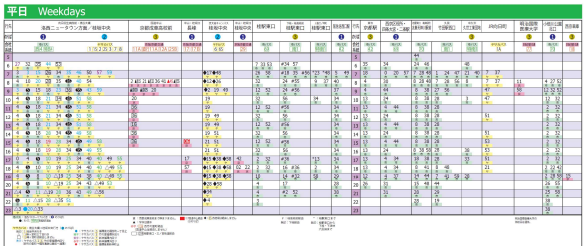
■誰もが安心して利用できる公共交通を目指す必要があります。

●誰一人取り残さない公共交通の実現（ハード・ソフト両面におけるバリアフリーの推進）＜事＞

●交通結節点での乗換案内の充実によるスムーズな乗継ぎの促進＜事・行＞

●運賃制度のシームレス化の推進＜事・行＞

ＪＲ桂川駅前発バス時刻表　市：市バス　京：京阪京都交通　ヤ：ヤサカバス



先行してこんな取組を実施しています！

計画策定に先んじて、事業者や関係機関とともに観光混雑対策や担い手確保に関する取組などを実施しています。

京都駅一極集中の緩和

観光シーズンにおける京都駅の混雑緩和を図るため、京都を訪れる方に対し、地下鉄やＪＲ山科駅・東福寺駅等の「サブゲート」を活用したルートを推奨する情報発信に取り組んでいます。

また、臨時手荷物預かり所を設置するなど、市バス車内の混雑緩和に繋がる手ぶら観光の推進にも注力しています。

担い手確保に向けた補正予算(R5)を編成！

交通事業者、業界団体が行う担い手確保の取組に対する支援、また、イメージアップに係るＰＲ実施のために、本市にて補正予算を編成しました。（予算額:5,000万円）

これを受け、京都府バス協会がバス運転手の魅力発信イベントを開催しました。

発行：令和６年１月発行　京都市印刷物第054871号
京都市都市計画局歩くまち京都推進室
住所：〒604-8571
京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地
電話：075-222-3483　ＦＡＸ：075-213-1064

この印刷物が不要になれば「雑がみ」として古紙回収などへ！

京都市 CITY OF KYOTO　SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

京都市は持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）を支援しています。